

## 大切な言葉

### 小 三

ぼくの家には友だちが遊びに来たときのことです。友だちはぼくが声をかけても遊びにむ中で、帰る時間ギリギリまで遊んでしまいました。そして時間になると、

「やばい、もう帰らなきゃ！」

と言って、おもちゃをちらかしたまま帰ってしまいました。ぼくはため息をつきながらおもちゃをかたづけました。べつの日、また同じ友だちが遊びに来ました。今日もギリギリまで遊んでいたけれど、今日は、  
「自分の分だけでも……。」

と少しかたづけられました。それに、「のこりはぼくがやるからだいじょうぶだよ。」

と言うと、

「ごめんね。ありがとう！」

と言ってくれました。ぼくは楽しかったなあと思いながらおもちゃをかたづけました。ぼくは言葉ってすごいなあと思いましたが、同じかたづけでも、友だちの言葉一つで、ぼくの気持ちが高んなにかわったからです。それから何日かたって、『言葉屋』という本を読みました。ぼくはこの本を読んで、ますます言葉ってすごいなあと思いました。言葉は「すくい」にも「ぶき」にもなるということが、よく分かったからです。

言葉には、言うといい気持ちになる言葉と、言ったらだめな言葉があります。しん重に使わないと、む意しきにだめな言葉を言ってしまったり、いい言葉を使ったつもりだったのに、後から実はだめなことを言ってしまったりしたかもしれないと思うこともありま。言葉を大切に使わないと、自分もいやな気持ちになるし、相手もいやな気持ちになります。

そういういやな気持ちになる言葉をたくさん同じ人に言うのがいじめです。いじめは言葉をぶきにしています。さい近はラインやインターネットで自分の名前をかくしてこうげきをしている人も多いと聞きます。とても悲しいことです。

一人一人が、自分がそういうことを言われたらどんな気持ちになるかを考えて、自分がいやだなと思うことは言わないようにできればいいのになとすごく思います。

そして、相手がうれしい気持ちになれる言葉をたくさん言えるようになれば、みんななかよく気持ちよくいられてとつてもいいのになと思います。これからぼくは、人を元気づけたり、やさしい気持ち、楽しい気持ちにさせたりできるすくいの言葉をたくさん使えるように、言葉を大切にしていきたいと思えます。